

令和6年度企業局事業の決算概要をお知らせします

企業局では、地方公営企業法第30条第1項の規定により、令和6年度事業の決算をとりまとめ、電気、水道両事業ともに、純利益を計上しました。

1 各事業の状況

（ ）内は令和6年度当初予算数値

<電気事業>

電力量は、冬期の渇水の影響等により当初予算の想定を下回ったものの、新規発電所の運転開始や既存発電所の大規模改修完了に伴う運転再開等により、前年度の実績を上回りました。

純利益は、急騰していた売電単価の大幅な下落に伴い、前年度を大きく下回ったものの、純損失を見込んでいた当初予算を上回り、3,148万7千円を計上しました。

区 分	令和6年度 (a)	令和5年度 (b)	増 減 (a-b)
電力量	2億2,915万7千kWh (2億6,729万4千kWh)	2億2,120万8千kWh	794万9千kWh
純利益 (税抜き)	3,148万7千円 (△5億2,344万3千円)	13億7,166万8千円	△13億4,018万1千円

<水道事業>

末端給水事業の給水量、用水供給事業の供給量ともに、ほぼ前年並みでした。

純利益は、水道事業全体で前年度を下回ったものの、当初予算の見込みを上回る3億9,710万3千円を計上しました。

区 分	令和6年度 (a)	令和5年度 (b)	増 減 (a-b)
末 端 (給水量)	1,887万9千m ³ (1,899万5千m ³)	1,895万m ³	△7万1千m ³
用 水 (供給量)	2,955万1千m ³ (2,956万5千m ³)	2,957万7千m ³	△2万6千m ³
純利益 (税抜き)	3億9,710万3千円 (5,735万5千円)	4億2,478万円	△2,767万7千円

2 経営指標の状況

- 経常収支比率（経常損益）
電気、水道両事業ともに、継続して100%超 ⇒ 「経営の健全性」を確保
- 流動比率（短期的な支払能力）
電気、水道両事業ともに、継続して100%超 ⇒ 「支払能力」を確保
- 有形固定資産減価償却率（資産の老朽化度合）
電気、水道両事業ともに、計画的な更新を実施 ⇒ 施設設備の「老朽化を抑制」

※ 詳細は、別紙のとおりです。